

### 御霊をあがめて歩む―御父・御子と共に―

(ガラテヤ5・16)

#### 一、御霊によって歩む

ガラテヤの教会、すなわち主イエス・キリストを信じる群は、パウロの第二回目の伝道旅行において起こされたようです。ガラテヤの教会は当初は純粹な信仰を持ち、且つ熱心で良かったのですが、主イエス・キリストを信じるだけでは救われない、律法を守ることでよって救いが完成されると説いた偽教師の影響を受けて、信じていることの内容が変わってしまいました。すると、どうなったでしょうか。神の御意思に敵対する思いが、すなわち罪が頭をもたげてまいりました。こうして、せっかく救われて純真な思いで信じていたのに、生まれながらの人、肉の人になってしまいました。そこでパウロが語ったのが、5章16節のことばでした。《私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、肉の欲望を満たすことは決してありません。》と。

主イエス・キリストを信じるとは、御霊によって歩むことです。御霊によって歩むとは、御霊に導かれて歩むことです。御霊に導かれて歩むとは、例えばこういうことです。

主イエス・キリストを救い主と信じ

ました。その後に、どのような願いが生まれましたでしょうか。一人ひとり異なります。ある人は「信仰を持ったからには聖書を通読したい」と思うことでありましよう。是非始めてください。それが、御霊によって歩んでいることです。

別の人は「手紙を書いて、キリストの救いを知らせたい」と思うことでありましよう。始めてください。御霊の導きです。

ある人は「こんなことをしたい」と思いつくことでありましよう。それは、多くの場合、他の方がまったく思いつかないことです。多くの場合、御霊は、その人がやりたい、やってみたいというかたちで思いを起こされます。ただし罪を犯すこと、すなわち主の御意思に逆らうと知って何かを行うのは、御霊の導きではありません。

主イエス・キリストを信じるとは、御霊によって歩むことです。御霊によって歩むとは、信じている自分、ないしは自分たちがやりたいと思ったことを行うことです。ある願いは、温めて温めて、それを実現させるまでに何年もかかるかも知れません。ですが、御霊の導きを探っているなら、実現します。

#### 二、御霊の働きを知る

今年の教会標語は「御霊をあがめて歩む―御父・御子と共に―」でした。キリスト教会の信仰の源流であります二

カイア信条から採りました。二カイア信条は、神が父・子・聖霊という三つの位格(ヘルソナ)によって御自身を現しておられると、はっきり謳っていません。ですが、《私たちは、ただひとりの神、すべてを支配される父を信じます。》から始まり、《またただひとりの主イエス・キリストを信じます。》に続き、《また聖霊を信じます。》という順序、すなわち父・子・聖霊を信じるという内容になっていきます。

二カイア信条の第三項に、次のことばがあります。《また聖霊を信じます。聖霊は主、いのちの与え主であり、父と子から出て、父と子と共に礼拝され、共に栄光を帰せられます。そして預言者によって語られました。》と。

聖霊は《父と子と共に礼拝され、共に栄光を帰せられ》るお方です。この文章は「父と子と共に礼拝され、共にあがめられる」とも訳されます。聖霊は、父と子と共に礼拝されるお方です。ところが、西ローマ教会の流れは、聖霊をあまり強調しません。西ローマ教会の流れとは、ローマ・カトリック教会、及びそこから派生したプロテスタント教会の流れです。西ローマ教会の流れにおいては、聖霊は主イエス・キリストを証する霊として背後に押しやられてしまいました。ですからカトリック教会もプロテスタント教会も、聖霊を強調しません。もっとも、カトリック教会にも

聖霊刷新運動なるものがあります。が、主流ではありません。プロテスタント教会も同じです。ペンテコステの伝統を受け継いでいる教会を快く思わない傾向が、未だにあります。

その理由は、二カイア信条のある部分のちがいにあります。もともと二カイア信条は《聖霊は主、いのちの与え主であり、父から出て、父と子と共に礼拝され、共に栄光を帰せられます。》であつたようです。ですが西ローマ教会が、「また子より」を意味する「フィリオクエ」という、一つのことばを加えたようです。こうして《聖霊は主、いのちの与え主であり、父(と子)から出て、父と子と共に礼拝され、共に栄光を帰せられます。》となり、今日に伝わっています。そういうわけで聖霊は、父、御子と同じように呼びかけられ、意識されて然りなお方です。聖霊をあがめることは、父なる神をあがめることであり、主イエス・キリストをあがめることです。私たちがふだんの生活の中で、「聖霊さま、感謝します」と言えば、主イエスさまに感謝していることになり、父なる神が喜ばれることにつながります。

#### 三、二〇二二年を振り返って

「12月24日のキャンドルライト礼拝に参加した方々が語られたあかしのこ

とばを紹介させていただきました。」